

おすすめの本 2015(平成27) 座間総合高校図書館

4月23日は「子ども読書の日」です。子どもたちにもっと本を！との願いから、「こどもの読書週間」は1959年(昭和34年)にはじまりました。もともとは、5月5日の「こどもの日」を中心とした2週間(5月1日～14日)でしたが、2000年より、今の4月23日(世界本の日・子ども読書の日)～5月12日になりました。

小さいときから本を読む楽しさを知っていることは、子どもが大きくなるためにとても大切なことです。「こどもの読書週間」のあいだ、図書館や本屋さん、学校などでは、読み聞かせや人形劇などの楽しい行事がいっぱい行われます。「こどもの読書週間」は、大人が本を子どもに手わたす週間でもあるのです。



①先生のお薦めの本 ②K O本(神奈川県)の学校司書が生徒の皆さんにお薦めしたい本)の中から本を選び、リストにしました。ここで紹介した本はすべて図書館にありますので、是非お読みください。

書名	作者名	出版社	コメント
鹿の王 上・下	上橋 菜穂子	KADOKAWA	病とは、医療とは、生きるとは何か。本屋大賞受賞。神奈川県)の学校司書が高校生に薦めたい本、第一位。
本屋さんのダイアナ	柚木 麻子	新潮社	本を通じて親友となった彩子と大穴(ダイアナ)。二人の生きる道は違っても物語の世界の女の子から知恵と勇気もらい、少女から大人へとたくましく成長していく。女子生徒におすすめしたい一冊。
紙つなげ！彼らが本の紙を造っている	佐々 涼子	早川書房	震災による絶望からわずか半年で復興を遂げた、石巻にある製紙工場のノンフィクション。
明日の子供たち	有川 浩	幻冬舎	児童養護施設の高校生の生活や悩みもわかる。社会問題にふれるきっかけの本。
ハケンアニメ！	辻村 深月	マガジンハウス	良質のアニメ業界お仕事小説。
世界から猫が消えたなら	川村 元気	小学館	「世界から猫が消えたなら」それでも世界は続いていくけれど、その小さな変化は、自分や誰かの「世界」にとっては、意味のあることかもしれない。
蝸の記	葉室 麟	祥伝社	武士の生き方、責任のとり方、物の考え方など、今の私たちには、無縁のような気がするが、一人の人間として、参考にできる所もあり、感動できる。
「自分」の壁	養老 孟司	新潮社	今、自分が意識してやっていることは、実は単に脳の悪い癖によるものかもしれない。
永遠の0	百田 尚樹	講談社	映画にもなり、文庫本が300万部以上売れたヒット作。生きることは何かということを考えさせてくれる反戦小説。泣けること必至。
ボックス	百田 尚樹	講談社	読み進むうちにどんどん楽しくなる。
風が強く吹いている	三浦 しをん	新潮社	箱根駅伝の物語。走るにより友情とは何か、絆とは何かがわかっていく青春小説。
市民科学者として生きる	高木 仁三郎	岩波書店	著者が素晴らしいので是非読んでほしい。
原発事故はなぜくりかえすのか	高木 仁三郎	岩波書店	著者が素晴らしいので是非読んでほしい。
プルトニウムの恐怖	高木 仁三郎	岩波書店	著者が素晴らしいので是非読んでほしい。